

第1章 調査概要

1 調査目的と方法

(1) 調査目的

「岐阜市総合計画(ぎふ躍動プラン・21)基本計画 2013」(計画期間:2013(平成 25)年度～2017(平成 29)年度)では、心の豊かさの追求を掲げ、市民の心の豊かさを表す指標等を示し、これらを定量的かつ定期的に測定し、その結果に基づき、より現実的な政策展開を図っていくとしている。

そこで、計画に掲げた指標の進捗を把握するとともに、市民の意識や行動等を多面的に把握するための調査を「市民意識調査」として、昨年度より実施している。

なお、本調査の結果を今後の政策の立案等に活用することで、だれもが心の豊かさを実感できるまちの実現を図っていくこととしている。

(2) 調査期間

平成 26 年 10 月 27 日(月)～11 月 10 日(月)《2 週間》

※11 月 13 日(木)に礼状兼督促状を発送。

(3) 調査対象

満 15 歳以上の住民基本台帳登録者(中学生を除く)

(4) 調査方法

住民基本台帳より対象者 3,000 人を単純無作為抽出した上で、調査票(145～148 ページ参照)を郵送し、記入後、返送してもらう方法で実施した。

本報告書の留意事項

- ・ 各設問の n は有効回答数を表している。なお、各選択肢の比率は n を 100%として算出している。
- ・ 各選択肢の比率はすべて百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出しているため、すべての選択肢の比率の合計が 100%とならない場合がある。
- ・ 不適切な回答(単数回答のところに複数回答しているなど)については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意思が読み取れるものは、できる限り反映させて処理している。
- ・ 調査票の表現については、趣旨が変わらない程度に見やすく簡略化して示している場合がある。

2 回収状況と回答者属性

(1) 回収状況

発送数	回収数	無効数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,653	4	1,649	55.0%

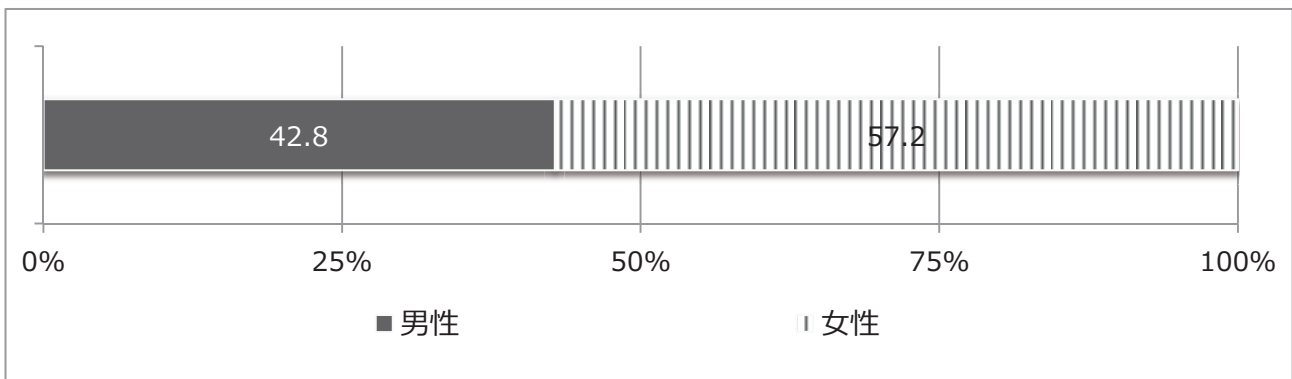
※ 無効は白紙回答

※ 前回調査(平成 25 年度)の回収状況:

発送数 3,000、回収数 1,676、無効数 2、有効回収数 1,674、有効回収率 55.8%

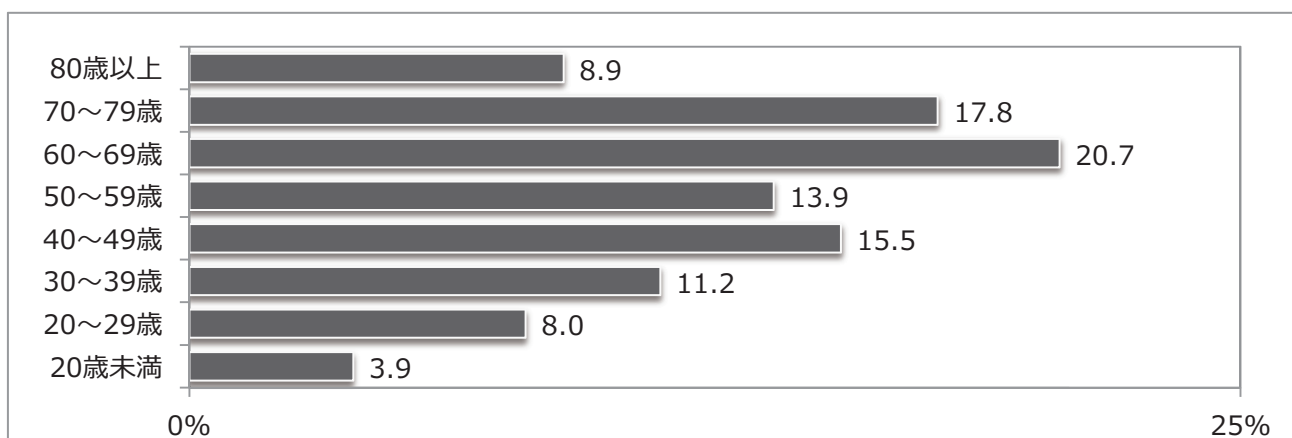
(2) 回答者属性

ア 男女別構成 n=1,606



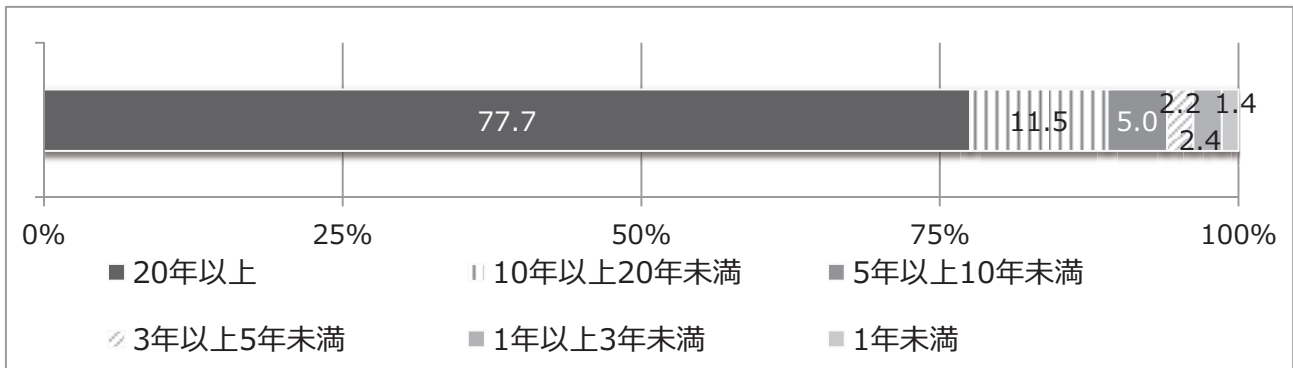
男女別構成をみると、「女性」が 57.2%、「男性」が 42.8%と、「女性」の比率の方が高かった。

イ 年齢階層別構成 n=1,610



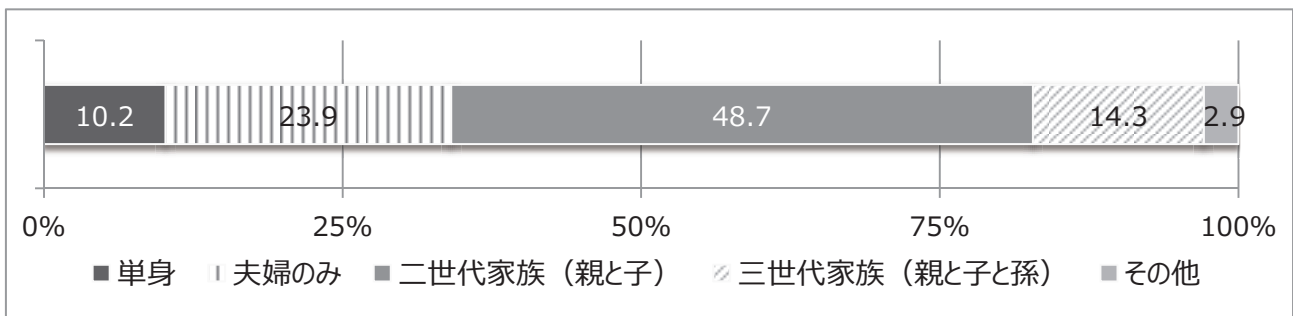
年齢階層別構成をみると、「60~69 歳」(20.7%)の比率が最も高く、次いで、「70~79 歳」(17.8%)となった。なお、「60~69 歳」、「70~79 歳」、「80 歳以上」の合計が 47.4%となった。

ウ 居住年数別構成 (通算) n=1,614



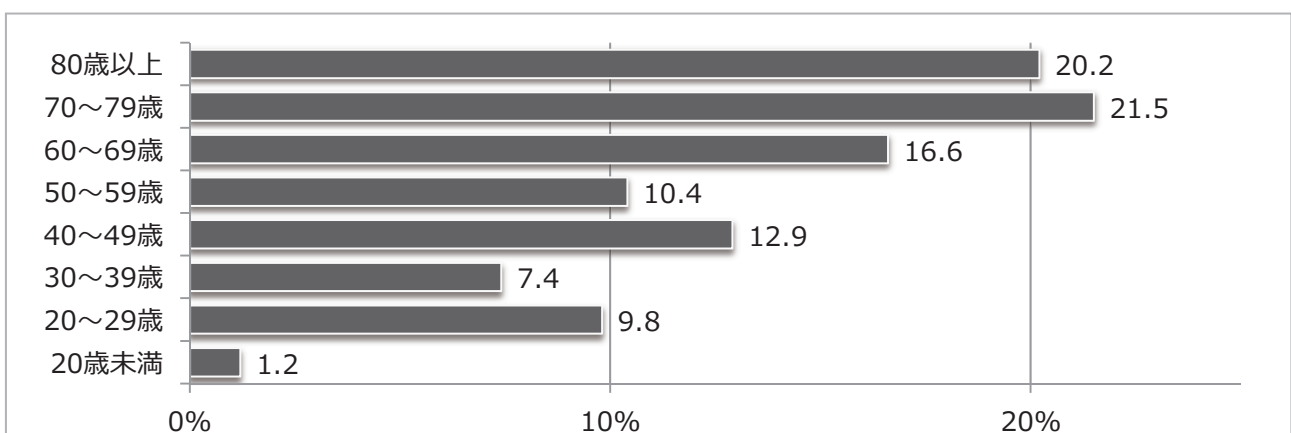
居住年数別構成をみると、「20年以上」(77.7%)の比率が最も高く、次いで、「10年以上20年未満」(11.5%)となった。

エ 家族構成 (同居) n=1,598



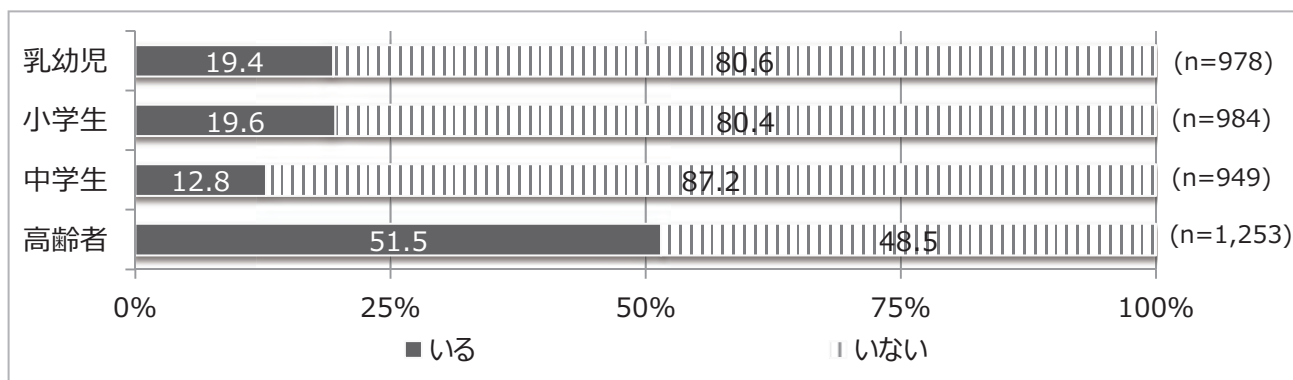
家族構成をみると、「二世世代家族(親と子)」(48.7%)の比率が最も高く、次いで、「夫婦のみ」(23.9%)となった。

単身者と年齢階層別構成とのクロス集計 n=163



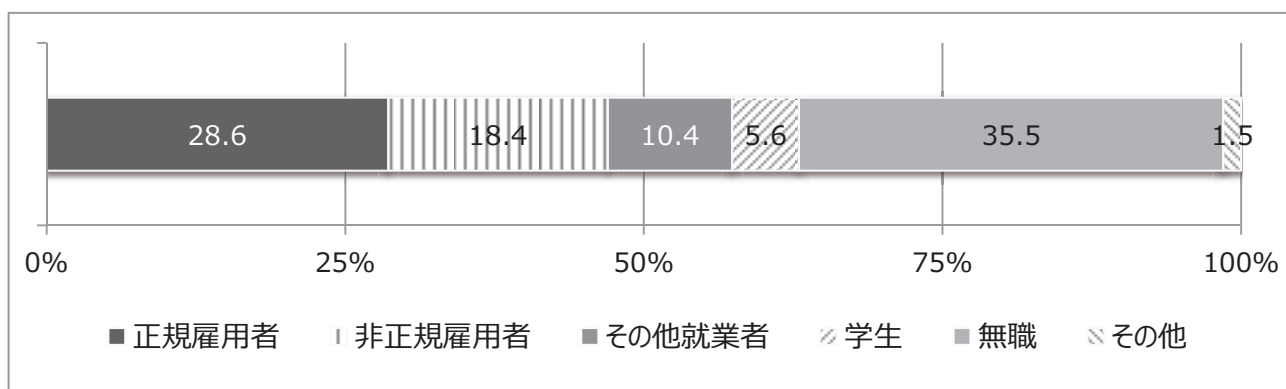
家族構成でみると、「単身」の割合は 10.2%と低かったが、「単身」を年齢階層別にみると、「70~79歳」(21.5%)が最も高く、次いで、「80歳以上」(20.2%)となった。なお、「60~69歳」、「70~79歳」、「80歳以上」と回答した割合の合計が 58.3%となった。

オ 乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯



乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯別にみると、乳幼児のいる世帯が 19.4%、「小学生」のいる世帯が 19.6%、「中学生」のいる世帯が 12.8%、「高齢者」のいる世帯が 51.5%となった。

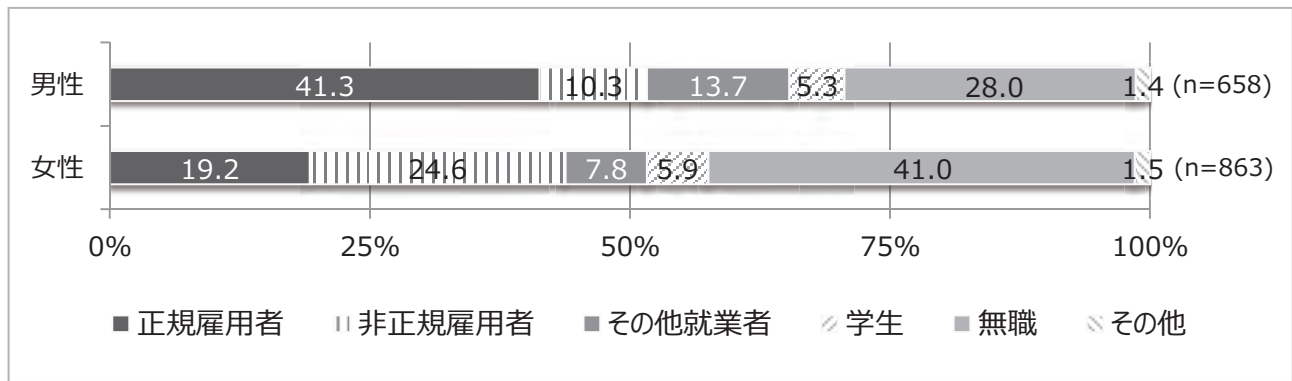
カ 職業別構成 n=1,533



※職業別構成の定義:「正規雇用者」は会社員・役員、公務員など。「非正規雇用者」は派遣・契約社員、嘱託社員、アルバイト、パートタイマーなど。「その他就業者」は会社経営者、自営業者、家族従業者、農業従事者など。「学生」は大学生、専門学校生、高校生など。「無職」は専業主婦(主夫)、年金生活者、失業中の方などを指す。

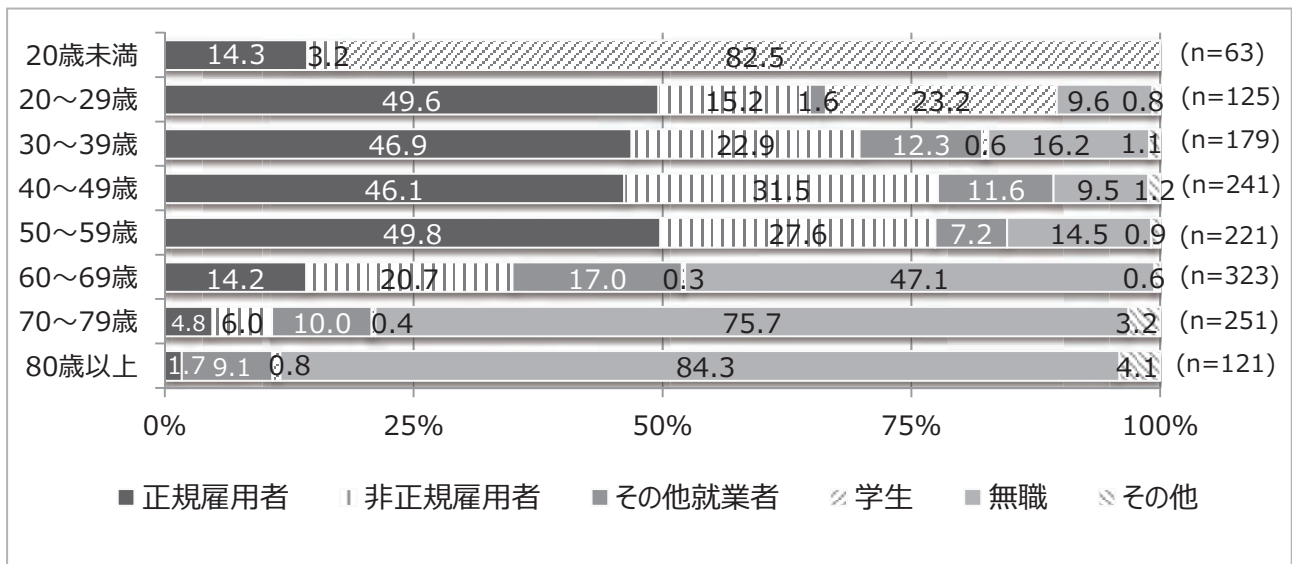
職業別構成をみると、「無職」(35.5%)が最も高く、次いで、「正規雇用者」(28.6%)、「非正規雇用者」(18.4%)となった。

男女別構成とのクロス集計 n=1,521



職業別構成を男女別にみると、男性では「正規雇用者」(41.3%)が最も高く、次いで、「無職」(28.0%)となった。一方で女性では「無職」(41.0%)が最も高く、次いで、「非正規雇用者」(24.6%)となった。

年齢階層別構成とのクロス集計 n=1,524



職業別構成を年齢階層別(「その他」を除く)でみると、「正規雇用者」では「50～59歳」(49.8%)が最も高く、次いで、「20～29歳」(49.6%)、「30～39歳」(46.9%)、「40～49歳」(46.1%)となった。

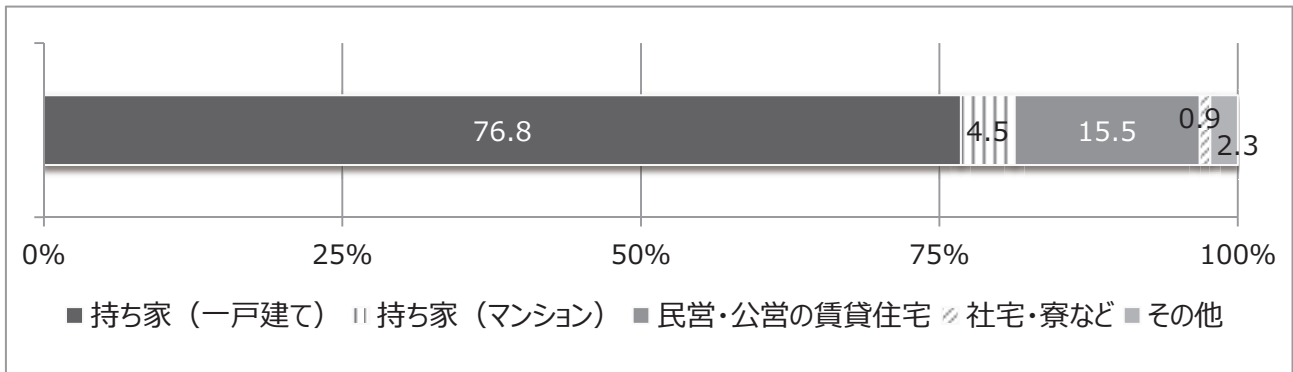
「非正規雇用者」では「40～49歳」(31.5%)が最も高く、次いで、「50～59歳」(27.6%)、「30～39歳」(22.9%)となった。

「その他就業者」では「60～69歳」(17.0%)が最も高く、次いで、「30～39歳」(12.3%)、「40～49歳」(11.6%)となった。

「学生」では「20歳未満」(82.5%)が最も高くなった。

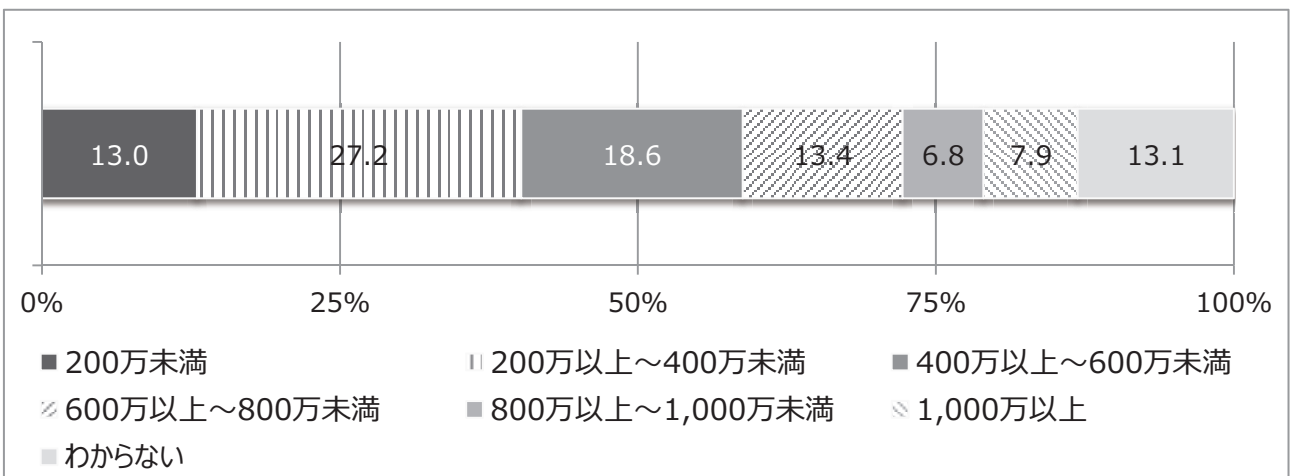
「無職」では「80歳以上」(84.3%)が最も高く、次いで、「70～79歳」(75.7%)、「60～69歳」(47.1%)となった。

住宅別構成 n=1,609



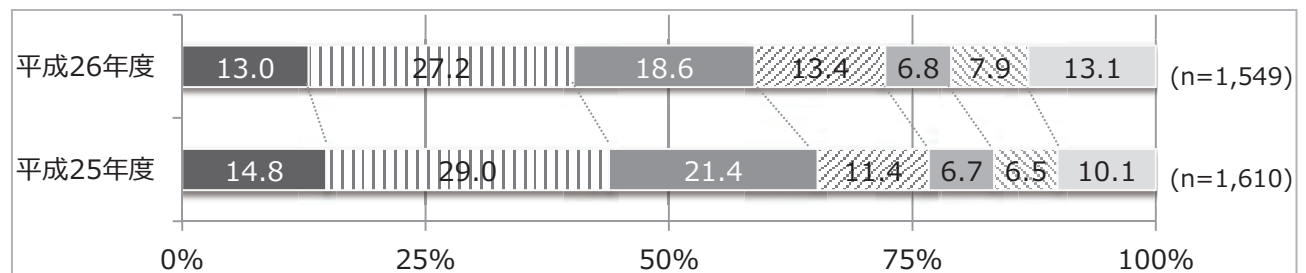
住宅別構成をみると、「持ち家（一戸建て）」(76.8%)が最も高く、次いで、「民営・公営の賃貸住宅」(15.5%)となった。

世帯収入別構成 n=1,549



世帯収入別構成をみると、「200 万以上～400 万未満」(27.2%)が最も高く、次いで、「400 万以上～600 万未満」(18.6%)となった。

平成 25 年度調査結果との比較



平成 25 年度調査結果と比較すると、「200 万未満」、「200 万以上～400 万未満」、「400 万以上～600 万未満」と回答した割合の合計の差は、6.4%の減少(65.2%(平成 25 年度)から 58.8%(平成 26 年度))となった。